

木造十一面観音菩薩立像

所在地：須恵町大字佐谷 建正寺
時期：平安時代(11世紀後半)
指 定：福岡県指定有形文化財(彫刻)
須恵町指定有形文化財(彫刻)

■ 県指定文化財第1号

平安時代の最澄(伝教大師)作と伝えられる観音像です。県指定文化財(彫刻)の第1号です。像高175cmで、ほぼ等身大の立像です。ヒノキ材の寄木で作られています。菩薩の顔と、頭頂部に如来面1つ、その周囲に



【木造十一面観音菩薩立像（県指定文化財）】

10の菩薩面が配されています。小振りの鼻と唇で、ふくよかな頬をしており、穏やかで清楚な印象の仏像です。このような表現方法は、仏師定朝の「定朝様式」と呼ばれるスタイルです。現在素地が見えていますが、漆箔の痕跡が見られることから、

当初は全身漆箔の尊像であったようです。

■ 昭和の修復

この観音像は櫃の中にバラバラの状態でも保管されていました。昭和29年に東京文化財研究所による修復を受け、現在に至っています。

■ 花開く仏教文化

佐谷建正寺は、伝教大師(最澄)が開基したと縁起に伝えられている寺院です。毎年4月の第1日曜日には、十一面観音の御開帳があり、地元の方々によるお接待や子ども会育成会に